

論文内容の要旨

報告番号		氏名	中島 拓紀
Dapagliflozin improves treatment satisfaction in overweight patients with type 2 diabetes mellitus : a patient reported outcome study (PRO study)			
(和 訳)			
ダパグリフロジン投与における肥満2型糖尿病患者の治療満足度への影響 : a patient reported outcome study (PRO study)			

論文内容の要旨

【背景】SGLT2 阻害薬の利点は血糖降下のみならず、体重減少、降圧作用、低血糖が少ないことがあるが、欠点として陰部感染症や脱水、頻尿等がある。このような利点と欠点を含めて、SGLT2 阻害薬が総合的な治療満足度を改善するかは明らかになっていない。本研究の目的は、経口糖尿病薬で治療中の肥満2型糖尿病患者に対して、ダパグリフロジン(SGLT2 阻害薬)が及ぼす HbA1c と体重、質問紙で評価した治療満足度への影響について調べた。

【方法】多施設共同前向き単一群オープンラベル試験として、肥満2型糖尿病患者を対象に 14 週間ダパグリフロジンを投与した。経口糖尿病薬の治療満足度を評価する質問紙として Oral Hypoglycemic Agent-Questionnaire (OHA-Q)があり、SGLT2 阻害薬の一般的な副作用を追加した 23 項目の質問紙からなる新版の OHA-Q ver.2 を作成して治療満足度を評価した。HbA1c 及び体重の変化と治療満足度の変化の相関性について、スピアマンの順位相関係数を用いて評価した。

【結果】221 例を登録し、188 例が試験を終了した。HbA1c 値は $7.8 \pm 0.7\%$ から $7.3\% \pm 0.8\%$ まで改善した ($P < 0.001$)。体重は $82.5 \pm 14.6\text{kg}$ から $80.7 \pm 14.8\text{kg}$ まで減少した ($P < 0.001$)。OHA-Q ver.2 については妥当性を確認した。OHA-Q ver.2 の総得点は 44.3 ± 9.4 から 46.6 ± 9.8 (最高点 69, 最低点 0) に改善した。体重の変化は OHA-Q ver.2 の総得点と有意に相関していた (Spearman's $\rho = -0.17$, $P = 0.035$)。HbA1c の変化は OHA-Q ver.2 の総得点とは有意な相関を認めなかったが、OHA-Q ver.2 サブスケールの満足度スコアと相関していた (Spearman's $\rho = -0.19$, $P = 0.011$)。

【結論】14 週間のダパグリフロジンの投与は肥満2型糖尿病患者の治療満足度を有意に改善した。体重減少は治療満足度と相関した。HbA1c の減少は OHA-Q ver.2 の総得点と相関しなかった。ダパグリフロジンは HbA1c だけでなく体重を減少するため、治療満足度において有用であるといえる。